

歴史的景観の町・佐原

香取市佐原の中心を蛇行しながら流れる小野川沿いは、平成8年に重要伝統的建造物保存地区（重伝建地区）選定を受けました。最近では、観光客もたくさん来るようになりました。そんな佐原の小野川沿いを中心に歩いて見たいと思います。まずは、佐原駅を降り、最近オープンしたRホテルを左手にしながら、駅前通りを西に向かって歩いて行くと、線路際の歩行者用通路が見えてきます。ここを小野川に向かって歩いて行くと、うなぎ割烹の山田の店舗が現れます。昼頃にこの店に近づくとうなぎの香ばしいにおいがしてくるので直ぐ解ると思う。



JR 佐原駅前



駅前広場



線路脇通路

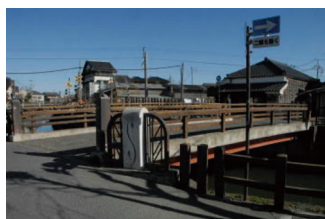
山田うなぎ店の直ぐ横の路地へ入っていくと、小野川が見えてきます。この川は、江戸時代には、銚子から江戸への物流の中継拠点として、重要な位置を占めるようになりました。そして明治・大正・昭和の初めまでは、佐原も商業の町として大いに賑わいました。しかし、戦後物流の流れが鉄道や車による輸送に変わって、昭和40年ころには、時代に取り残された町になってしまいます。しかし、そのことにより、古い町並みが残りました。この町を歩くと、昭和初期にタイムスリップしたような感覚を覚えます。小野川の両岸には、伝統的建築物（町屋や土蔵、洋風建築等）が立ち並び、歴史的景観を現在まで伝えていきます。



・山田うなぎ店

河岸（かし）を散歩する

まず、この小野川沿いの事であるが、河岸と書いて「かし」といいます。さらに地元では、河岸（かし）っぶちと言っています。閑話休題、さて早速小野川河岸を歩いてみましょう。



出発点は開運橋です



河岸を左回りに歩く



現在は住宅になっている旧商家の町並



歩く道順ですが、ここは左回りで歩いて見ます。すると、直ぐに古い商家の町並みが現れますが、ここは先を急ぎます。すると見慣れない構造物が現れます。通りから小野川に降りて行く階段状の構造物です。これは何でしょうか。答えは、「だし」と言います。巾は約2～2.5間です。これは、各商家が小野川への商品の積み下ろしをした場所です。車両の運行の障害になったり、歩行者が危険だと言うことで、一時だいぶ撤去しましたが、最近復活しています。現在では観光客用のさっぱ船の乗降口として使用したり、各商家の女将さん達による飾り付けをしたりしています。

小野川の護岸が完成したのは、昭和10年ということで、その頃は、商家の数だけ「だし」もあったということです。

